

電波の分類						電波の記号			
周波数区分		周波数範囲		波長区分		記号		記号の意義	
VLF(Very Low Frequency)	30kHz以下	30~300kHz		ミリアメートル波		変調の形式	A	振幅変調	
LF(Low Frequency)	300~3,000kHz	3,000kHz~300MHz		キロメートル波			F	周波数(または位相)変調	
MF(Medium Frequency)	3,000~30,000kHz	30,000kHz~300MHz		ヘクトメートル波			P	パルス変調	
HF(High Frequency)	300~3,000MHz	300~3,000MHz		メートル波		伝送の形式	0	情報を送るための変調のないもの	
VHF(Very High Frequency)	300~3,000MHz	300~3,000MHz		デシメートル波			1	変調用可聴周波を使用しない電信	
UHF(Ultra High Frequency)	3,000~30,000MHz	30,000~300,000MHz		センチメートル波			2	1もしくは2以上の変調用可聴周波数の電けん開閉操作(特別の場合には、電けん操作をしない変調波)による電信	
SHF(Super High Frequency)	30,000~	300,000MHz		ミリメートル波			3	電話(音響の放送を含む)	
EHF(Extremely High Frequency)	300,000MHz						4	ファクシミリ(主搬送波を直接にまたは周波数変調をした副搬送波で変調したもの)	
<b>周波数と波長</b> $\lambda \text{ (m)} = \frac{3 \times 10^5}{f \text{ (kHz)}} \quad \lambda \text{ (m)} = \frac{3 \times 10^2}{f \text{ (MHz)}}$ $f \text{ (kHz)} = \frac{5}{\sqrt{C(\mu\text{F}) \cdot L \text{ (mH)}}}$ $\lambda \text{ (m)} \approx 60,000 \sqrt{C(\mu\text{F}) \cdot L \text{ (mH)}}$							5	テレビジョン(映像のみ)	
							6	4周波ダイブレックス(2重通信)	
							7	音声周波多重通信	
							9	以上の0~7に該当しない伝送または複合した伝送	
						(なし)	両側波帯		
						A	単側波帯		
						H	低減搬送波のもの		
						J	全搬送波のもの		
							抑圧搬送波のもの		
						B	2独立側波帯		
						C	残留側波帯		
						D	パルス		
						E	振幅変調のもの		
						F	幅(または時間)変調のもの		
						G	位相(または位置)変調のもの		
							符号変調のもの		
						現在よく使用されている電波の例 A0, A1, A2, A3, A3A, A3B, A4, A5, A9, A9C, F0, F1, F2, F3, F4, F5, F9, P0, P1, P2D, P2E, P2F, P3D, P3E, P3F, P9			
						<b>無線通信に用いる周波数</b>			
周波数帯の番号		周波数の範囲 (下限を含まず、上限を含む)		メートルによる 該当区分		略号			
4	3kHz~30kHz	ミリアメートル波		VLF					
5	30kHz~300kHz	キロメートル波		LF					
6	300kHz~3,000kHz	ヘクトメートル波		MF					
7	3MHz~30MHz	デカメートル波		HF					
8	30MHz~300MHz	メートル波		VHF					
9	300MHz~3,000MHz	デシメートル波		UHF					
10	3GHz~30GHz	センチメートル波		SHF					
11	30GHz~300GHz	ミリメートル波		EHF					
12	300GHz~3,000GHz	デシミリメートル波		—					
なお、慣用周波数区分として、長波(10~100kHz)、中波(100~1500kHz)、中短波(1.5~6.0MHz)、短波(6.0~30MHz)、超短波(30~300MHz)、極超短波(0.3~30GHz)、マイクロ波(1~100GHz)、ミリ波(30~300GHz)があり、現在も用いられている。									